

## ナス（早熟）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
作型		◇									□		
	▲	—	◎	—	////	////	////	////	////	////	○	—	○
主な作業	接 ぎ 木	定 植	収 穫								播 種		

### 技術体系

(家族労働力2人の場合)

#### 1 作型の特徴

暖房機を使わずカーテンとトンネルによる保温で栽培する、促成栽培と露地栽培の中間的な栽培形態で、水稻の前作とする場合と、更新剪定を行って、収穫時期を延ばす栽培がある。

促成栽培でボケ果等が発生し、品質が低下する時期に、高品質のものを多収穫できる利点がある。

最近は促成栽培、露地栽培、ハウス抑制栽培の3タイプに整理されつつある。

#### 2 適応地域

平坦地域

#### 3 栽培条件

促成栽培と同じ

#### 4 施設装備

- (1) 連棟型ハウスまたは単棟ハウス
- (2) 内張りカーテン装備
- (3) 灌水施設
- (4) 水田地帯の場合は強制暗きょ等排水施設

#### 5 経営目標

- (1) 収量 6t/10a
- (2) 投下労働時間 520 時間/10a
- (3) 所得率 50 %
- (4) 経営規模 30a

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

「築陽」

草勢は半開性で枝の太さは中程度。草姿は中強の極早稲種で秀品率が高い品種である。果形は太めで長く、揃いも良い。果色は濃い黒紫色で、艶が良い。環境変化に比較的敏感である。厳寒期の首太りが良く重量感がある。

「黒紫大長ナス」

果実は濃黒紫色でツヤがあり、果長 40cm 以上になる。果皮は特に柔らかく、肉質も緻密。草姿は立性で濃緑葉となり、草勢は比較的強い。果実が長いため、着果位置を高くする等独自の管理を要する。

台木については、促成栽培と同じ台木を利用する。

#### 2 育苗

##### (1) 播種量

10a 当たり穂木、台木とも 40 ml

##### (2) 播種期

11 月下旬～12 月上旬

#### 3 播種

育苗箱を用いる場合は 10a あたり、穂木用、台木用それぞれ 10 箱を用意する。

播種の方法は 1 箱 10～12 条、1 条あたり 40 粒

内外を播種する。

基肥施用後できるだけ深く深耕し、幅1／7～1.8 m、高さ30～40 cmの高畦とする。

#### 4 仮植

本葉1～1.5枚展開した頃、株間10 cm内外に仮植する。床面積は、本圃10aあたり30 m<sup>2</sup>を要する。台木はポリポット(径15 cm)に鉢上げする。

#### 7 定植後の管理

その後の管理は促成に準ずる。

#### 5 接木と管理

(1) 台木が本葉5～6枚、穂木が4～5枚展開した頃、割接ぎを行う。台木は本葉1～2枚を残して茎を切断し、カミソリで1.5 cm位縦に切り込みを入れておく。穂木は子葉と下葉1枚を落として、くさび形に切る。台木に、穂木を押し込み、クリップでとめる。

(2) 接木前3～5日前から灌水を控えめにし、台木を硬めに作る。この際、病害虫防除も併せて行っておく。

(3) 接木管理床は二重トンネルを設置し、内トンネルにビニルを、外トンネルには遮光シート又はラブリット等を被覆する。接ぎ木後はトンネル内の湿度を保ち、温度は30℃以上にあげないように注意し、萎れたら噴霧してやる。5日目くらいから生育状態に合わせて徐々に光線を当てて馴らす。

(4) 穂木、台木とも苗の不揃いを考慮して、必要本数の20%増で計画する。

(5) 定植前の10～15日は灌水を少なめにし、苗の馴化を図る。定植までの育苗日数は40～50日程度となる。

#### 6 本圃準備

##### (1) ハウス準備と土づくり

厳寒期の定植となるので、定植20～30日前までにハウス建てから排水溝の準備、堆肥及び基肥の施肥、畦づくりを完了し、地温を充分ぬ高めておく。

##### (2) 施肥量 (kg／10a)

	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	備 考
基 肥	20	35	20	完熟堆肥 2～3 t
追 肥	25	5	20	
合 計	45	40	40	

##### (3) 畦たて